

製品名: ナブシン A ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab14408

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	NAPSA
別名	Napsin-A (EC 3.4.23.-; Aspartyl protease 4; ASP4; Asp 4; Napsin-1; TA01/TA02)
遺伝子 ID	9476.0
SwissProt ID	O96009
免疫原	アミノ酸配列範囲: 191-240 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

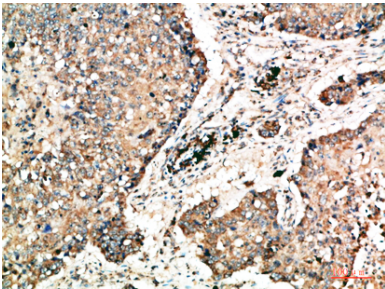
この遺伝子は、アスパラギン酸プロテアーゼのペプチダーゼ A1 ファミリーのメンバーをコードします。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって活性化ペプチドと成熟プロテアーゼを生成します。アスパラギン酸プロテアーゼの活性化ペプチド

ドは、プロテアーゼ活性部位の阻害剤として機能します。これらのペプチドセグメント（プロパーツ）は、アスパラギン酸プロテアーゼチモーゲンの正しいフォールディング、標的化、および活性化の制御に重要であると考えられています。コードされているプロテアーゼは、肺における肺サーファクタントタンパク質 B のタンパク質分解処理に関与している可能性があり、腎近位尿管におけるタンパク質分解にも機能している可能性があります。この遺伝子は、肺腺癌および腎細胞癌のマーカーとして報告されています。 [RefSeq 提供、2016 年 2 月],機能: 肺胞上皮細胞サーファクタント前駆体の処理に関与する可能性がある。 ,類似性: ペプチダーゼ A1 ファミリーに属する。 ,組織特異性: 主に成人の肺 (II 型肺胞上皮細胞) および腎臓、ならびに胎児の肺に発現する。成人の脾臓では低レベル、末梢血白血球では極めて低レベルである。 ,

研究分野

リソソーム;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された